



特別  
ホ 2  
6842





可慎五韵音曲之事

第一調子 第二詭子 第三開合

惣而節 ナミ 節 ナミ 移 ウツリ 地 ナミ 詭 ナミ 亦也

イロハニホヘト      テリヌルヲカ

ヨメシソウナ      ラムウ井ノモツ

ヤミケフユエテ      アヤキユメミシ

エヒモセス      氏トモイエトメシテム



舌内<sup>ロウ</sup>唇内<sup>シ</sup>也。牙齒<sup>ゲ</sup>ノニツハ舌内<sup>ロウ</sup>合<sup>キ</sup>  
一切<sup>シテ</sup>ノ音<sup>キ</sup>ヲツクス其儀ハ。アノ横<sup>キ</sup>  
行ハ。アノ音<sup>キ</sup>ヨリ通<sup>ツ</sup>シ。イノ横行<sup>キ</sup>ハ。イ  
ノ声<sup>キ</sup>ニ通<sup>ツ</sup>シテアノイウエウノ五音<sup>キ</sup>ノ兼<sup>キ</sup>  
ク又アノイウエウハ。アノイウノ三ツノ  
コト也。アノ喉<sup>キ</sup>。イハ舌<sup>キ</sup>ノ根<sup>キ</sup>ニシテ。ウ  
ハ唇<sup>キ</sup>ニシテ、此故ニ喉<sup>キ</sup>音<sup>キ</sup>ハ一切<sup>キ</sup>音<sup>キ</sup>ノ  
源<sup>キ</sup>也。舞<sup>キ</sup>ノ音<sup>キ</sup>曲<sup>キ</sup>是<sup>キ</sup>ノ根本<sup>キ</sup>トスル也

五所五行諸屬之事

アノヤ喉<sup>キ</sup>。タラチ舌<sup>キ</sup>也。サリ齒<sup>キ</sup>。カ牙<sup>キ</sup>。  
ハマノニハ唇<sup>キ</sup>輕<sup>キ</sup>連<sup>キ</sup>アノヤ土<sup>キ</sup>。タラチ火<sup>キ</sup>  
ナレハ。サリ金<sup>キ</sup>カ木<sup>キ</sup>。ハマノニツハ水<sup>キ</sup>清<sup>キ</sup>濁<sup>キ</sup>

スミニユル

五音

宮キウ  
土

商シヤウ  
金

角カク  
木

徵テイ  
火

羽ウ  
水

五調子

一越イツ

平調ヘイ

双調シュウ

黄鐘ワウ

盤渉パン

喉カウ

齒シ

牙ガ

舌ゼツ

唇シン

木ハ肝コ膽タン

マナエスミツメ春青クスミ東也トウ團怒ダン

火ハ心シン臟ザウ

小腸舌毛アカ血復南三角苦ク笑セウ声シヤウ

土ハ脾ヒ胃イ

唇肉マ乳身ニクニ黄土用中央チュウ四角歌シカクカ

金ハ肺ハイ大腸ダイ

ハナミイキ皮マ煉西自シ半月哭ハツゲツナク

水ハ腎シン膀胱ホウ

齒骨耳マ冬北キタ黒クワク水スイウウ声シヤウ

開カイ合ガフ

事ジ濁ダク声シヤウハハ海カイ水スイ乳ニク品シヤウ有ユウ

縦テハハ志シヤヤウウララヤヤウウデデウウセセウウ出シュツルル事ジハハ

開カイ合ガフ事ジハハ濁ダク声シヤウハハ海カイ水スイ乳ニク品シヤウ有ユウ

ああいいままるるんん

きりしとらふ作名ハサモスセウノ齒音  
ひふむよわりのまをこのひろことうと  
合せし家の音也あれひり死つ家あな  
ふかああり 聖回 浄律 浄律  
勸誘 謹上 浄律  
けれりししししししししししししししし  
ぢりしとらふ作名ハサモスセウノ齒音

めく古申にわりのまをううううハ  
かあのくわいあ也

十文

浄律

てうとらふあなこれとクテウテト書音  
めし音るさ死もあさりてすがあ  
かふせらわうしりハ又ありし一系  
平調



つこしうの音此字熟語めうりて  
けひるもあまのうりて  
味もはつめはけ度は橋  
うらつこ家あり入道入房入  
唐入聲甲し甲骨香石  
合戦

くまうの關記かうハ丁が記

けたがひ悉を書けくひよ  
かよつす口マフる対ふ記の皆  
開クと可心好

しよれ假右ハ字彙三重韻  
て知まやしとまハ開  
石ハまうらうたこのめは純  
く味味可篇



音曲と俗語差別之事

安穩

觀音

穩音

かんの音かぬ

かんの字と縁の字  
ハ世話音曲とのみ熟しよみ  
のんとあゝいん事一をよ  
行

天皇

新王

てんあゝいんあゝいん

あゝいん感應かんのとあゝいん是

アカサタハニヤウロソ相通を

とあゝいんあゝいんあゝいん

ふあゝいんあゝいんあゝいん

あゝいん俗談もけかゝるあゝいん

あゝいんあゝいん

轉廻

子ん祿多あふ丑ヶ世テ子へ左  
し工めうく志六祿めかうあり

文屋

康秀がんめやうやうひと

況

いんじやうあふあふ  
いんじやうあふあふ

是一字れゆあくあふのうらえ

儀部

いひあふあふいさぶとうらえ

信漢めとしさぶとまやめあ

け音曲よあいさあといふ事一の

あひ乃節一めさうてああ

をいふあゆかああああ

げいあえそやせ子へあえし上

横おあ色あうりけ放よへあえ

かよひとああああああ

女部先

ととるあ〜と倍讀あせと

あふ事一をよる〜と五ヶ世テ  
お色ああま

後

あんとといふ事一倍讀あせ  
風一とささあふの平  
世のあらことひ〜言よら  
又ひひあらひせあらと  
あ〜とさよ〜とらあせ

相通あり

ひんそらあひいぬなと〜と

事一とよ〜と〜と

ひんそらあひいぬなと〜と

ウユットホセヨロカよ〜とのね

あ〜の所〜と〜と

あ〜もアカサハ〜と〜と

升殿をゆゑるをさきやう  
らんのことゝ事一先と横  
お通あり

カキクエ音タケトノ舌音  
十字は流るゝの連はあひ  
うりそ婦一甲に雅み  
る於の人とゆゑるは  
よ阿のあなるれはしよいたの

三字とさふ也

平尔於葉之事

音曲を讀了てにむし  
すれハわるも事一さう  
けふもはよさう一七  
らんと

てよぞうけよらぬ此そと切字

阿連ハ海とらふてしんかあいに  
海も也まれき又ありんを  
思ふもいしれハウラスワ  
又フムユルウにかよひてあは  
といよてよん城のつらあり  
又きよハきこもまきらんか  
もちうらありつたのひいね

さうしてあひしんかあひんハ  
悲敷とらふ字をありつらあり  
悲ししつらありてあは  
ハと海ありしれあは利  
あは海ありしれあは利  
てのこちのあは利  
んそたのこは是もあは利

とよみあふ花のしづか  
とよみあふ花のしづか

もはよりわき田川嵐や山嵐よ  
つらき心もさくね氷もみ  
しきさしたけり入海  
や月乃ひよりけりうらな  
あまの花もを舞はんがけり

白雲もさくまもいさ  
山ハト雲のあふる色はな  
いそ  
なまらくなわけてねさ  
けしきもさくまもいさ  
あまのよもさくまもいさ  
てけさくまもいさ  
さるハミヤサテ子ハミエし玉横の

お毎也春乃後れやといわや  
ね—じめれをいさ—とて  
祿書やいひく海の色よき  
いふてい—に—くんと祿と  
まふてよはれ祿也早や早や  
ふへまエしと相通なりや二言の  
う—いあけ—と—ふあなを

相也也

やん春之後なみ—いあなりこの  
月乃う—と—をや—から春  
ふ春のす—い—をかんて  
ゆ—のわ—い—れをき置よは  
やな—い—是やめ—と  
と海のた—事—ハす—と

な〜ぬ〜い〜と道理は  
さう上にお〜いふも  
あつた  
入るよお〜代〜れ  
す〜るあや伏見の里  
乃空〜い〜るは口  
夜とすあ〜若の  
はね裁か〜るやうに

河〜い〜も夢あ〜い  
お〜い〜のい〜れ  
よ〜い〜もあ〜い  
さあ〜い〜はたら  
あ〜い〜は花  
な〜い〜は  
か〜い〜は



たれ(當世)乃と多りし事  
此音曲といふもの作者は  
吟味めくあつしらぬ  
とあつしてわたりうふ  
想——其事しめりら  
ハ猶又文音の誤りある  
事有ぬ人ハ多し  
事也

作者はひらみら  
江多枝縁衣える也

中元を去事一ゆれと讀ハ  
此元を用

あえ	こゆれ	越	さえ	さゆり
さこえ	さこゆり	周	さえ	さゆり
さえ	さゆり	字	に	さゆり

りえ りえ 萌 のり 燃  
いえ い 愈

此多量のひりも中乃元を可書

保本穂帆 か乃 志

中下みよむハハの字を中々字は

志 か 塩 い 庵

か か 顔 か 蕉

あ あ 句 あ 竿

い い 巖 い 掩

う う 潤 う 槿

ほ ほ 燭 ほ 郡

こ こ 氷

此多量のひほあぬ

緒越意との字也

ちろしるをま車小乃字れたる  
何事ものけいのを也

そあひ 中身 ちへ 小橋

そつふ 小川 その 小野

そしり 中麻 ちへ 小倉山

そや山 小塔山 ちへ 小田

そきつ 小第原をひの神 小島袖

そり 小梯 玉のをや兒 玉猪柳

そる海 小車 ちへのを 小橋

そら 送

け頼 ちへの

おろのちまへ 平車 大の字 小たへ 尾花

おがさ 大倉 小がさ 大方





う	も	い	は	た	よ	ひ
あ	ふ	ふ	ふ	あ	ふ	ふ
振	飽	厭	傳	残	碎	向
ら	乃	の	く	か	あ	は
敬	呪	杖	食	圍	羽	絡
	咀					

らあふ 哲言うまふ 慙  
 此外 ちひへん内ひら字を  
 のきく 維石有り

そ	た	さ	わ
と	た	さ	わ
ら	そ	か	は
ふ	ふ	あ	あ
甚	貯	栄	辨
よ	う	さ	そ
こ	ふ	の	の
ふ	ふ	ふ	ふ
横	存	調	備
鋒			

まゝか 教 ありらふ 能

此外は志すべしや  
事数多可なりけり  
りよかふ五音のゆゑ  
れは成事事けり  
まれくもけ類よ  
惟右の中乃えみ  
たの

まゝか  
おれ  
有る

まゝか  
あゝ  
まゝか  
まゝか  
まゝか  
まゝか

もあやまりあへん  
うきりんとまへに  
わやまりあへん  
おろろろろ

ろ  
あへん  
さへん  
再拜  
かへん  
垣

さへん 細く さへん 幸

かい 棹 舟 たい 作 續

いへん 胎内 れい 珍

新 へん

大田君へ  
よし  
字と改む



たむ(ハ)響(わ)るうんひ次とよむし  
こゑハわう也げ類物とみし  
ありの口傳さうり

中(れ)おと書(き)事(事)下(れ)ひらさう  
い(い)出(し)る(の)油(の)お(の)よ(の)す(唯)一(色)  
あ(後)ハ(中)の(お)可(成)紅(れ)あ(ま)も  
く(れ)る(や)あ(ま)あ(る)う(故)中(の)あ(ま)も

く(の)位 ぼ(の)魂

う(の)み(り)初(経)く(の)あ 雲(井)

つ(の)よ 鏡(ま)の(の) 園(居)

よ(の)あ 膏(の)あ(の)あ 水(籠)

志(の)あ 系(居)に(あ)ま(る) 新(枕)

さ(の)あ 強(か)の(の) 居

う(の)あ 考(居)に(あ) 鯛

右中のおろる  
うの字を下に書事下は  
あまのこにうよふ家いふ也

まう 僧 せうく せう  
まうめう 焼香なりふ 堂塔  
ううたり 同道くうと 供  
こうまふ 興立にうとく 女房

まじし 料紙

け外敷ぬまの心時下をう  
とまじハれたるまの心  
割まの心時下をうとま  
ふの字とまの心時下をう  
とくくまの心時下をう  
まの心時下をうとま

いふむある魚

ひのれき 埋木 しま馬

ひの 梅 じま馬壁

む山風 眞山風むらう 菊

ふれら可成

物乃 緒みわのあう 流らう ねとほし

を 緒 野玉袋

尾ハわくのわあり

木のへ 尾上 山まねか 山を尾

るのか 馬尾 たらお ねちう 雁丸 たり尾

又云

きしあふ 押並をきし物う 押あふ  
をきしあふ 推並をきし物う 押あふ



みわれあまのつゝあるいふも〜  
に半字の字もあまのつゝに  
たぐれの中のおると思ひのつゝ  
うの勢もあまの中のおる  
く可成りあまのつゝに  
うりぬ中たえをうけぬ  
かひに〜たはあひ〜

ほ〜たの紙書る〜  
懸ハあひ〜  
とま也〜  
されとあまのつゝ  
と似合〜  
かひに〜  
己のれ自らのつゝ



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 10 lines of text, starting with a large initial letter 'D' and ending with a long horizontal flourish.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 10 lines of text, starting with a large initial letter 'D' and ending with a long horizontal flourish.

かろのちの下の(あ)

をききあそびし袖よそりたて

をかりよそりして馬よのいあん

あさこしはあそびあつたあそび

あつたあそびあつたあそび

あつたあそびあつたあそび

あつたあそびあつたあそび

ほ

あつたあそびあつたあそび

あつたあそびあつたあそび

い

あつたあそびあつたあそび

ぬ



升ふいぬーのぬのぬけぬぬ  
やぬぬりぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

此書前々、開合悉在相傳  
口より後作、右遠捷者稀  
雖有之、是又令書寫傳受  
者也

武列北野天神別當藏

己丑舟二子盡春季晉司正右盡焉

元祿第八乙亥歲 吉田氏中繼記念  
仲夏中七 吉祥日寫之

元祿第八乙亥歲

吉野

年庚



Faint, illegible markings on the right page, possibly bleed-through from the reverse side. The markings appear to be vertical columns of text, but they are too faded to read.



以下全て  
白紙

